

核セキュリティに関わるアンケート(定期)

本資料では、核セキュリティ文化醸成活動の一環として、原子力部門全員に対して、年1回受講を依頼しているeラーニングと併せて実施しているアンケートについて報告する。

1. 調査の概要

アンケートは、原子力部門の全社員を対象に実施している。なお、両事案が発生する前の状態を把握することを目的として、2019年度の結果を対象として用いる。

アンケート項目および選択肢は以下のとおり。

(1) アンケート項目

アンケートは15問で構成され、1～8問は「私」を主語とし、自分自身の考えや振舞いを問うている。続く9～15問は「私の所属する組織」を主語とし、組織の状況を問うている。

具体的項目は以下。

- Q1 私は、安全を常に最優先に考え行動している。
- Q2 私は、日本の原子力発電所においても、テロ等核セキュリティ上の脅威は現実存在すると思う。
- Q3 私は、核セキュリティ上の不適切事例が何かということを理解している。
- Q4 私は、情報管理を的確に行うことの重要性を理解している。
- Q5 私は、組織上の行動規範を守っている。
- Q6 私は、当社の核セキュリティに対して、自分も責任を負っていると思う。
- Q7 私は、他人が核セキュリティを低下させる様な不適切行為や不審な行為を行うのを目撃した場合、関係個所へ報告することが出来る。
- Q8 私は、組織内で不自然な状況、ヒヤリハット等、事故までにならなかったことについても上司または担当課に報告している。
- Q9 私の所属する組織（本社、福島第一…等）では、組織内の地位とは関係なく、核セキュリティを意識した行動や貢献が評価され、組織や個人の行動改善に反映されている。
- Q10 私の所属する組織（本社、福島第一…等）では、構成員（経営層から一般職に至る）各層の果たす核セキュリティに関する役割と責任が明確に示されている。
- Q11 私の所属する組織（本社、福島第一…等）では、核セキュリティの向上のための意見や考えを提案する制度がある。
- Q12 私の所属する組織（本社、福島第一…等）では、地位を問わず意見や考えを述べ合える風通しのよい風土がある。

- 。
- Q13 私の所属する組織（本社、福島第一…等）では、失敗事例を「誰が悪かった」のではなく、「何がいけなかったのか」を突き詰め行動改善に反映するようにしている。
- Q14 私の所属する組織（本社、福島第一…等）では、核セキュリティの意識向上や理解促進を目的とした研修や教育活動を行っている。
- Q15 経営層や管理者は、核セキュリティ文化の重要性を定期的に職員および協力会社社員に説明している。

（２）選択肢

以下選択肢から評価を選択。とてもそう思う を 7 点、まったく思わない を 1 点、無回答を対象外として集計している。

- | | |
|----------|---------|
| とてもそう思う | (7 点) |
| そう思う | (6 点) |
| ややそう思う | (5 点) |
| どちらでもない | (4 点) |
| やや思わない | (3 点) |
| 思わない | (2 点) |
| まったく思わない | (1 点) |
| 無回答とする | (集計対象外) |

2. 結果

全社、本社、福島第一、福島第二、柏崎刈羽の組織ごとに、核物質防護部門（P P 関係者）とそれ以外の社員（P P 除く社員）の役割で分けて、アンケート各項目ならびに主語別（私 と 組織）の平均点を以下表に示す。

なお、下表では、平均点が 6 点「そう思う」未満の評価を赤字で示した。

。

	2019年度									
	全社		本社・立地		福島第一		福島第二		柏崎刈羽	
	PP関係者	PP除く社員	PP関係者	PP除く社員	PP関係者	PP除く社員	PP関係者	PP除く社員	PP関係者	PP除く社員
Q 1	6.6	6.4	6.8	6.4	6.7	6.4	6.6	6.4	6.5	6.4
Q 2	6.5	6.4	6.8	6.4	6.6	6.3	6.4	6.4	6.3	6.3
Q 3	6.5	6.2	6.8	6.2	6.5	6.2	6.6	6.3	6.4	6.3
Q 4	6.5	6.4	6.8	6.4	6.6	6.3	6.5	6.4	6.5	6.4
Q 5	6.5	6.3	6.8	6.3	6.6	6.3	6.5	6.4	6.4	6.4
Q 6	6.6	6.4	6.8	6.4	6.7	6.3	6.5	6.4	6.5	6.4
Q 7	6.5	6.2	6.8	6.3	6.4	6.1	6.6	6.3	6.5	6.3
Q 8	6.3	6.1	6.8	6.0	6.4	6.0	6.4	6.2	6.1	6.2
平均	6.5	6.3	6.8	6.3	6.6	6.2	6.5	6.4	6.4	6.3
Q 9	6.0	5.7	6.4	5.6	6.0	5.6	6.4	6.0	5.7	5.8
Q 10	6.1	5.8	6.8	5.6	6.1	5.7	6.3	6.0	5.9	5.9
Q 11	5.9	5.4	6.3	5.3	6.1	5.3	6.2	5.6	5.6	5.5
Q 12	5.3	5.7	6.4	5.7	5.6	5.5	5.9	5.7	4.7	5.7
Q 13	5.6	5.6	6.6	5.6	5.8	5.5	6.1	5.7	4.9	5.7
Q 14	6.0	5.7	6.5	5.5	6.2	5.6	6.2	5.9	5.8	5.8
Q 15	5.9	5.5	6.6	5.5	6.1	5.3	6.2	5.8	5.4	5.7
組織平均	6.0	5.9	6.6	5.8	6.1	5.7	6.3	6.0	5.7	5.9

3. 特徴

上記集計に基づき抽出した回答の特徴は以下の通り。

- ・核物質防護部門（PP関係者）
 - 柏崎刈羽を除く各組織では、PP関係者の方が、PP除く社員よりも評価が高い。このことから、PP関係者は、自らの意識や行動、所属する組織の振る舞いや仕組み等について、よくやっている、と考えていた状況がうかがえる。
 - 一方、柏崎刈羽においては、PP関係者の方が、PP除く社員より評価が低く、他の組織の特徴と異なる。
 - 柏崎刈羽の自らの考えや行動についての評価は、福島第一・福島第二のPP関係者と大きくは変わらない。しかし、組織の状況への評価の低さが目立つ。特にQ12「意見のしやすさ（風通しのよい風土）」とQ13「失敗事例を突き詰め行動改善に反映」の項目への評価の低さは顕著である。
- ・それ以外の社員（PP除く社員）
 - 発電所間の差異はない、と言える。
 - PP除く社員において共通的に評価が低い項目はQ11「核セキュリティの向上のための意見や考えを提案する制度」。一方でPP関係者の同項目の評価はPP除く社員よりも高いことから、制度が十分に知られていない状況にあることが推察できる。なお、柏崎刈羽においては、PP関係者とPP除く社員両者とも他組織と比べて評価が低いことから、制度が十分に機能していない状況もうかがえる。

。

- 福島第一・福島第二では、PP関係者と比べて、PP除く社員の方が所属する組織の振る舞いや仕組み等についての評価が低い。このことから、PP除く社員は、組織としての核セキュリティへの取り組みが足りない、と考えていたものと推察。

以 上